

# スポーツ推進だより



も

第1回学区交歓スポーツレクリエーション大会 ..... 2～5

く

第66回全国スポーツ推進委員研究協議会 長野大会 ..... 6

じ

第73回東海四県スポーツ推進委員研究大会 ..... 7

岡崎市スポーツ推進委員研修会 ..... 8

# 第1回岡崎市学区交歓 スポーツレクリエーション大会

常磐学区 市川 佳希

令和7年12月7日(日)、岡崎中央総合公園総合体育館にて「第1回岡崎市学区交歓スポーツレクリエーション大会」が開催されました。本大会は今までファミリーバドミントン大会、ソフトミニバレーボール大会を別々に実施していたのを一緒に実施する初の取組です。ソフトミニバレーボールは『女性の部』・『混合の部』、ファミリーバドミントンは『一般の部』・『ファミリーの部』の4つの部門に分かれて各部の予選グループからリーグ戦を実施し、決勝トーナメントに進めるのは各リーグから1チームのみです。

## 今回参加したチームは市内学区から76チーム

- ・ソフトミニバレーボール  
女性部の部：21チーム、混合の部：20チーム
- ・ファミリーバドミントン  
一般の部：28チーム、ファミリーの部：7チーム

各学区から多くの参加者、観客のかたが大会を盛り上げて華を添えていました。

大会実施にあたり、大会前の11月には参加チーム向けに「監督会議」で全体説明、「審判講習会」にてルールの確認等を実施し、大会運営に参加者の皆様にもご協力をいただきました。



ソフトミニバレーボールの試合の様子



## 学区交歓スポーツレクリエーション大会について

各地域や学区において、日頃からチームメンバー・仲間・友達・家族での練習や身体づくり健康づくりを目的とした運動が行われています。地域・学区球技大会は、そうした日頃の成果を発揮するとともに学区の交流を図る場となっています。

本大会は、地域・学区の垣根を越えて参加者が一堂に会し、日頃の練習の成果を十分に発揮する機会とするとともに、参加者相互の交流を深めることを目的としております。

最近では、各学区の参加選手層も変わり始めておりますが、各地域・学区がそれぞれの方法で検討や交流を重ねてきた成果といえます。これは各地域・学区において中心的な役割を担い、日々陰となり日向となって地域のために汗を流しているスポーツ振興・体育委員の皆さんが活動を続け、その時々から次の世代へ引継ぎながら地域を盛り上げ紡いできた歴史が華を咲かせ実を結び続けてきた“今”があるからだと感じております。

数年前までは、岡崎市内の学区間交流が図られるお祭りの様な市全体の運動会「岡崎市民体育祭」が開催されておりました。参加選手始め地域委員や各町内会の皆さん、小中学校の先生方も参加し地域がワンチームとなり一喜一憂しながら朝から夕方まで、小学生から大人まで和気あいあいと活動していたのが大変でしたが楽しくもあった思い出があります。私も子どもの頃からあった体育祭が無くなったのは残念でしたが、本大会が学区交流と各地域スポーツ振興・体育委員の皆さんの活動を下支えして地域活性の一助になっていると思うと市民体育祭に代わる学区一丸になって参加できる大会だと思えますし、その役割を果たしていくことを期待しています。

ソフトミニバレーボール、ファミリーバドミントンはいずれも参加しやすいニュースポーツであり、ファミリーバドミントンの「ファミリーの部」の参加者は年々増加しています。ソフトミニバレーボールにおいても、「女性の部」だけでなく「(男女) 混合の部」の参加が広がっています。

ご興味がありましたら、各学区のスポーツ推進委員へ気軽に問合せいただけたら幸いです。地域の皆さんとともに、スポーツを通じて岡崎市をさらに盛り上げてまいりましょう。お友達やお仲間、近所の仲よしグループの皆さんと一緒に、ぜひご参加ください！



## 大会の様子

大会は、開会式で優勝カップ返還、選手宣誓で大会の火ぶたがきられました。予選リーグからスタートし、各チームが優勝を目指して力強いプレーを繰り広げておりました。決勝トーナメントでは、どの試合も接戦で会場は緊張と興奮に包まれておりました。その中でも試合とプレーを楽しむ姿が印象的でした。

ファミリーバドミントンの試合の様子



## 試合結果◆ソフトミニバレーボール



## 会場の雰囲気

会場では参加者や観客の笑顔が絶えず、試合中の応援や歓声が響きわたりました。

ソフトミニバレーボールでは、力強いアタックやボールを拾い繋げるプレーに学区を問わず応援する姿に心温まりました。

ファミリーバドミントンでは、長いラリーから相手の隙をつくピンポイントの攻めや緩急をつけた前後左右に振る攻撃で、色々な攻めのパターンがあるのに驚きました。ファミリーの部では、試合以外でもチーム交流しながら学区の隔たりなく練習や練習試合をしている姿に学区交歓の醍醐味を実感しました。

## 試合結果◆ファミリーバドミントン



## まとめ

第1回としての初の試みの大会でしたが、多くの参加者と観客に支えられ盛況のうちに幕をとじました。スポーツを通じて地域の絆を深める素晴らしい大会でした。次回へ向けて課題もありますが、多くのチームが参加し、より一層盛り上がる大会になることが期待されます。



# 第66回 全国スポーツ推進委員研究協議会 長野大会

美合学区 戸松 裕



- 日時** 令和7年11月13日(木)～14日(金)
- 会場** ビッグハット (長野オリンピックアイスホッケー会場)
- 参加者** 杉山会長、柴田副会長、重森副会長、天野理事長、西郷会計、戸松監事

**13日** 基調講演：演題「今日を生き抜くー普通の私がカナダ初の金メダルを掴むまで」  
講師：出口クリスタ氏  
シンポジウム：テーマ「つくる／はぐくむ」・「誰もがアクセスできる」・「あつまり、ともに、つながる」  
地域スポーツ環境を作るため

**14日** 第一分科会：テーマ「新たなスポーツ環境を創るスポーツ資源の地域連携とスポーツ推進委員」  
事例発表：S C軽井沢クラブ、長野市スポーツ推進委員協議会、ポアルース長野フットサルクラブ



長野放送 HP 動画より

基調講演では、3歳で柔道を始めパリオリンピックで金メダルを取るまでの、まるでドラマのような体験談から得られた教訓を講演いただき、メンタル面での教訓はとても参考になった。

シンポジウム・第一分科会では、スポーツ推進委員として活動する上で視野を広げることができて有意義であった。

## ■基調講演

### ○金メダル獲得までの道のり

小学生の頃、期待されるプレッシャーの中、男女無差別だったこともあり勝てずに楽しさを見出せなかった。鬱状態にもなりながら厳しい練習に耐え、その日の練習を乗り切る毎日。中学生になると男女別・体重別の区分となり、その環境の中で全国3位に入賞。そこで初めて「勝つ喜び」を実感する。高校生になって全国大会1位になり、ジュニア強化選手に選ばれる。大学進学後はスランプを経験するも、新たな技に挑戦し克服。東京オリンピックには、一発勝負の選考で代表を勝ち取ることができず、大きな挫折を経験する。そこから、見事立ち直り、次のパリオリンピックは過酷な選考を乗り越え、パリオリンピックで金メダル獲得。

### ○挫折から得られた教訓

- ・心が壊れると何もできない。
- ・心のケア：普段の生活（よく食べて、寝る）が大事、他人や環境のせいにはしない。
- ・心を乱さない工夫：言語化して良かった点を発見する。
- ・ポジティブシンキングは意識して練習する。

### ○金メダルが取れた3つの要因

緩急をつけて努力を重ねて、運をつかむ、準備をする（ポジティブな状態を保つ）。

最後に「努力はあなたを裏切る。でも、努力しなければ土俵にも立てない。チャンスをつかめる状態を整え、今日を生き抜く。」



## ■シンポジウム

### ○つなげるために

スポーツ推進委員への期待。お互い様精神を持つことを心がけ、地域の困りごとを吸い上げスポーツの関係者に伝えて欲しい。

### ○脳の衰えを小さくするために

脳にとって、スポーツがよいというのは常識。中程度以上の運動がよいとされているが、何もしないよりは軽い運動でも効果はある。レク・eスポーツでも、「たまに」でもやるのが効果あり。楽しさ・ワクワク感でドーパミンが発生し、記憶力の効果が上がる。「楽しく、スポーツのウイングを広げよう。」

### ○スポーツ教室講師としての心がけ

全員とコミュニケーションをとるようにしている。時には会話の方が長くなることも。楽しかったと思えてもらうことに重点を置いている。スポーツ推進委員としては、スポーツができなくても経験がなくても、スポーツの楽しさを伝えていけばよい。

## ■第一分科会

カーリングで有名なS C軽井沢クラブが、年間を通じてカーリングができる本格的な施設において地域とうまく連携を図りながら、トップアスリートの育成・強化や一般・シニアを対象にするまで裾野を広げている活動例を紹介。

長野市スポーツ推進委員148名の活動を紹介。面積が広い（岡崎市の約2倍）ことから、市全体で行う活動（体力測定、スポーツ推進向け研修会）と4地区に分けて個別に行う活動（計9種目のイベント）を行っている。ここ数年人気が出てきている種目は、ポッチャと囲碁ボール。囲碁ボールは、マレットゴルフのようなスティックとボールを使って、格子状にボールをならべる競技のようで、室内の狭いところでできるので面白そうだった。

中学校部活動の地域展開の受け皿の一つとして活動している民間のフットサルクラブから、課題と対応策について紹介。学校に対しては保護者を含めた連絡窓口として、行政に対しては費用面（ポイント制）において連携を図っている。

# 第73回 東海四県スポーツ推進委員研究大会

大樹寺学区 近藤 直樹

令和8年2月13日(金)・14日(土)に「いつでも健康と生きがいを得られる活動を～どこでも・いつでも・だれとでも～」を主題に第73回東海四県スポーツ推進委員研究大会が岐阜県下呂市下呂交流会館にて開催されました。愛知県・岐阜県・三重県・静岡県より約1,600名が集まり、岡崎市からは24名が参加しました。

1日目は下呂特別支援学校の生徒さん達による湯ヶ峰太鼓から始まり、表彰式、2つの講演会が執り行われ、迫力ある湯ヶ峰太鼓の演奏には感銘を受けました。

続いての表彰式では矢作西学区の平林良浩さんと矢作北学区の太田佐知子さんの2名が東海四県功労者表彰を授与されました。

講演会の1つ目は「MEKIMEKI体操～カラダうごかせ！ニッポン！～」と題し、3つの体力要素である「有酸素」・「柔軟」・「筋力」に「リラックス」を加え、体操のお兄さんを務めた佐藤弘道氏監修で作られたMEKIMEKI体操を紹介され、参加者全員で体を動かし盛り上がりました。

2つ目は「ラジオ体操～ラジオ体操アプリと100年に向けた取組～」と題し、2028年のラジオ体操制定100周年に向けての取組として自身の動きを採点できるラジオ体操アプリの紹介などがあり、長年に渡り活動を継続させる難しさを実感しました。



2日目は2つの分科会があり岡崎市は第1分科会へ参加し、笠松町・大垣市・岐阜県女性部会と3団体の研究発表を聴講しました。

笠松町、大垣市の共通した問題として参加者の募集・固定化が出ていました。どこも苦労している事だと改めて考えさせられました。

女性部会の発表ではミナモ体操、あとだしジャンケン、おはぎの嫁入りなど体と脳を使いさらに楽しく笑える運動を紹介され参加者で楽しく実践しました。

また情報交流会として他県の方々とグループを作り「普段の活動で困っていること」について意見交換をおこない、最後に代表として柴田副会長の意見発表で盛り上がり有意義な研修となりました。

# 岡崎市スポーツ推進委員研修会

連尺学区 鈴木 克典

令和8年3月7日(土)、岡崎市体育館でスポーツ推進委員研修会を行いました。今年度を締めくくる事業で多くの参加者が集まりました。先般の冬季オリンピックの熱も冷めないまま、令和8年は第20回アジア競技大会と第5回アジアパラ競技大会が愛知県で開催され感動の瞬間を体験することができます。岡崎市は、アーチェリー・バレーボール・野球・パラアーチェリー・座位バレーボールの会場に選ばれています。本研修会では、スポーツ推進委員が推進するファミリーバドミントンに加え、大会種目である座位バレーボールを体験種目に取り入れました。



## 【座位バレーボール】

競技名の通り、座った状態（座位）で行うバレーボール。一般の6人制バレーボールのルールとほとんど同じです。

## 【ファミリーバドミントン】

子どもから高齢者まで気軽に楽しめるバドミントンのルールや用具をアレンジして考案された3人制スポーツです。

「子は親の鏡」「親は子の鏡」と昔からいわれます。普段、推進委員は広く深くスポーツ事業の運営を行う側ですが、この日ばかりは推進委員自身が、明日以降の筋肉痛も顧みず、楽しみ・親しみ・触れ合うことで、推進委員同士の交流や絆が強固となりました。推進事業では、一般参加者に楽しんでもらい笑顔や感謝をたくさん貰っています。推進委員も参加者と同じ目線で気持ちを味わい体験し、その経験を活かし来年度以降は今まで以上に参加者が楽しめる充実した運営を提供できること間違いありません。

推進委員が競技の楽しみや喜び・感動を改めて知ること、今後の事業展開ではスポーツを通じて人と人・地域と地域が交流できる素晴らしさをアナウンスしていきたいです。



発行 岡崎市スポーツ推進委員連絡協議会

編集 岡崎市スポーツ推進委員連絡協議会 広報・事業部

事務局 岡崎市社会文化部スポーツ振興課 (TEL: 23-6363)

HP <https://www.city.okazaki.lg.jp/1550/1556/281500/p021076.html>

